

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

Vol.11では第15、16、17回検討会とアザメの会の活動状況をお伝えしました。

Vol.12では第1回アザメの瀬研究会、第18回、第19回検討会をお伝えします。

## 第1回アザメの瀬研究会開催 H15.4.21

(掲載順不同)

アザメ新聞vol.11で紹介しましたが、**自然再生を進めていくなかで現状がどのように変化して、周囲にどのような影響を与えていくのかを科学的に評価**するため、公募により選ばれた6団体の研究者によって調査が開始されることとなりました（右写真参照 見かけた際は、ご協力を）。そこで調査を始めるにあたって、**合同で現地調査を実施し調査内容を共有し、意見交換を行った上で調査を開始することが望ましいことから、「第1回アザメの瀬研究会」と題して開催**しました。

当日は午前中に松浦大堰などを視察しながら、午後からアザメの瀬地区の現地調査を行いました。この日アザメを初めて見た研究者からは「**写真で見るとよりすごい、おもしろそう、研究しがいがある**」といった声もあり、今後調査・研究を行っていくフィールドとして存分に活用してくれるものと思います。現地調査はアザメの瀬橋、ため池、松浦川魚介類調査と順調に進み、最後に佐里下公民館に場所を移して、各研究者の研究テーマ（アザメ新聞Vol.11参照）と今後のアザメの瀬の整備について意見交換を行いました。



大阪府立大学 山口教授



九州大学 望月教授



九州大学 増田教授



日本大学 桜井教授



和歌山大学 中島助教授



東京大学 西廣助手

各研究テーマは正直難しいと感じるものが多いですが、皆さんと共に理解して、吸収して、知識を増やしていきたいと思っています。研究内容については次号のアザメ新聞にて進捗状況を含めお知らせしたいと思います。

写真：掘り下げたアザメの瀬を探索

写真：ため池植生調査（怪しい植物を探す？）

写真：アザメの瀬沿い松浦川で魚介類調査

写真：佐里下公民館での、アザメの瀬整備計画について意見交換



# 第18回検討会開催！（当面の整備をどうする？） H15.5.8

今回は「**仮設ビクターセンター内の展示**」「**案内板設置**」「**アザメの瀬の整備**」について議論しました。

については、**パンフレット・地層調査標本・アザメ整備計画パース等を設置して欲しい**といった内容で、見学者に対して簡単な説明ができる資料が必要であるという意見が占めました。



魚が棲めるアザメの瀬を！

については、松浦川出張所において現場工事で発生した木材を用い作成した縦約1m×横約1.2mの立て看板内に何を掲示し、設置場所をどこにするのかを議論しました。特に最近見学者が多いとの意見から**きちんと自然再生事業の概要が説明できるものが必要**で、設置位置は**見学者の目に入りやすくアザメ入り口部でもある久我さん宅前の敷地に建てること**となりました。



魚が棲めるように、ここに深みを

については、縮尺1/250のアザメの瀬粘土模型を用いて議論した結果、平面図より整備イメージがつかみやすいためか議論が活発でした。内容としては「**瀬と淵がないと魚が棲まん**」「**水が枯れたら魚が死んでしまう**」といった内容で、特に魚介類に対して何とかしてあげたいといった思いが強く、「**ゴルフ場からの排水は、除草剤が流れ込んで来るからアザメの瀬には入れるな！**」といった意見が大半を占めました。今回の意見を踏まえ、工事に十分反映させながら、アザメの瀬を作り上げていきます。何か気づいた点・不明な点があればその都度意見を聞かせてください。皆さんの意見を十分組み込んでいきたいと考えていますので・・・

# 第19回検討会開催！ H15.6.5

## 案内板設置&工事の実施状況報告

案内看板を、5月22日設置しました。翌日、中身を貼り付けに行ったところ、もうすでに事業概要とイメージパースが貼り付けてありました。検討会の中でこの話をしたところ、「**何もないと寂しいけん、適当に貼り付けとたばい**」というとても頼もしい意見でした（自主的に行ってくれた事が、すごくうれしくて感激しました）。今後も自由に貼り付け可能とするため、施錠していませんのでどんどん張って新鮮な情報に更新しましょう。今は工事の実施状況も掲載しています。



15.5.22の看板設置状況



自主的に掲載 すばらしい



5/30 図面を現地で確認



6/5 低水路が形成されていく



6/5 掘り進むアザメの瀬

また工事実施状況も説明しました。着手前に描いた図面を現地にて掘り下げるラインを白線で描いてから掘り下げていること、T.P.2.0mまで掘り下げると**約8割ほどの湧水**（河川水からの流入？）があったことなど実際掘ってみて分かった新たな知見を説明しました。今後も**現地をよく観察し、自然の力でどのように変わっていくか**をこの目で確かめながらアザメの瀬を整備できたらと思います。皆さんも注意深く見てみてはどうでしょうか。きっとおもしろいと思いますよ。

**編集後記** 第19回検討会の中で「アザメの瀬の工事内容が分からなくて何をしているのかちゃんと報告して欲しい」といった意見を頂きました。十分情報提供を行ってきたつもりですが、6月の工事の情報を実際行き届いていなかったところがありました。今後これまで以上に情報の共有と周知を行って迷惑をかけないよう取り組んでいきたいと事務所も考えていますのでよろしく願います。